

分野別の地域調査

1 都市の地域調査	003
2 村落の地域調査	013
3 農業の地域調査	025
4 工業の地域調査	034
5 歴史の地域調査	046
6 観光の地域調査	058
7 行政の地域調査	068

第1部「分野別の地域調査」では、先行研究の蓄積が多く、調査方法や視点がある程度確立している論文を取りあげる。このような研究蓄積が多いテーマに取り組もうとすると、新しい切り口の模索やデータの収集方法など、さまざまな困難に直面する。どのような方法によって、その困難を克服し、新しい研究を確立できるのか、執筆者の経験にはたくさんのヒントが盛り込まれている。

第1章「都市の地域調査」のテーマは、人口が集積する都市である。これまで都市を対象として、地理学、経済学、社会学、都市計画など、さまざまな分野の地域調査が実施されてきた。その視点も、商業、交通、流通、人口、民族など、多岐に渡る。都市におけるさまざまな人間活動を反映したものが、都市の土地利用である。この論文では、市街地周辺地域が都市的な土地利用へ変化していく動態的なメカニズムを、土地所有者の意思決定に注目して明らかにした。土地利用という研究蓄積の多い題材にいかに取り組んだか、意思決定の主体である土地所有者への調査にはどのようにアプローチすればよいか、その工夫とアイデアは、地域調査に関するさまざまなテーマに応用できるものである。

国土の広い面積を占めるのが、第2章「村落の地域調査」でとりあげる農村や山村などの村落である。そこに住む人々の生活には、持続的に環境を利用するための知恵が長年かけて培われてきた。しかし、可住地の狭い日本では、都市化や工業化の圧力によって、村落の生活が大きく変化してきた。この論文では、都市近郊の山村を対象に、村落共同体としての入会林野の変化の要因を、史料や文献の収集と読解、地域住民や町役場への聞き取り調査から解明している。村落の変貌をうまく説明するための地域をいかに選定するか、そこに至るまでの経緯も、これから村落の地域調査に取り組んでいこうとする読者にとって大いに役立つものである。

第3章「農業の地域調査」では、村落の産業としての農業に注目する。近年の農業は、

安全な食料の供給や、村落の環境保全などの側面で消費者の注目を集めている。しかし、実際に農業に従事する農家にとって、経済性の追求は依然として大きな関心事である。市場の要求に対応しながら農業経営を維持するために、農家は栽培作物や栽培技術を次々と転換していかなければならない。この論文は、九十九里平野を事例として、施設型の野菜産地が維持されていく要因を、個々の農業経営の変化を分析することから明らかにしている。農業の地域調査は、他のテーマよりも現地調査が簡単であるといわれるが、対象とする農家のデータをすべて揃えるためには、それなりの準備やコツが必要である。

第4章「工業の地域調査」では、日本を代表する産業である工業をとりあげる。テレビやパソコンなど、私たちが普段使用している工業製品は、多数の部品から作られている。このような工業製品を生産するためには、部品の取引関係や情報の伝達に関わる企業間のつながり、すなわち連関構造やネットワークといわれるシステムの存在が不可欠である。このように工業の地域調査には「企業間のつながりに注目する必要がある」と語るのは簡単であるが、その実態（証拠）を提示するのは大変難しい。この論文は、京浜地域外縁部における大手電機メーカーの外注利用の特徴（連関構造）を、聞き取り調査から得たデータをもとに解明したものであり、工業の地域調査の課題に取り組むための視点とデータ収集に関する多くのノウハウが詳述されている。

地域調査が対象とする地表面の事象は、空間的な広がりをもつと同時に時間的に絶えず変化するものである。この時間軸を過去へ遡って分析をするのが、第5章「歴史の地域調査」である。歴史の視点を取り入れた分野には、歴史学、民俗学、考古学、地理学があり、文字史料、伝承、景観などを史料とする分析は、技法的な専門化の度合いがさほど高くないことから、複数の分野で活用されてきた。とくに地表の景観を対象とする地理学には、実際の現地を訪問して、植生、石碑、古文書、地籍図など、過去の景観の痕跡を見いだす醍醐味を味わえる。この論文では、吉野林業で知られる紀ノ川上流部において、現地調査による史料の収集と分析により、江戸時代初期の畑作景観を復元し、焼き畑作における商品作物栽培の実態を解明するまでの経緯が解説されている。

近年、地理学をはじめとして、地域調査で卒業論文を執筆しようとする学生に人気のある就職先が、観光関連の企業である。観光の地域調査の対象は多岐に渡るが、観光施設の立地、集客圏、観光の季節性、観光客の客層とレクリエーション行動などが、その中心的な研究課題になる。第6章「観光の地域調査」でとりあげる論文は、東京を中心とするマリナーの特性を、利用者の属性とレクリエーション行動に注目して解明したものである。観光に関する地域調査の基本に徹したデータ収集から明らかになった高額所得者層によるマリナー利用の実態は、興味深い結果である。

現在、市町村合併と行政改革が急速に進行していることや、高齢化社会の到来と福祉サービスの問題が台頭していることをみると、地域的な行政に関わる研究は今後ますます重要性が高くなるであろう。第7章「行政の地域調査」でとりあげる論文は、広島県のすべての市町村からデータを収集し高齢者福祉サービスの需要と供給のバランスを分析することによって、地域的公正のあり方を検討したものである。この研究が公開されるまでのプロセスを読めば、現地調査で得られるデータの重要性が理解できる。また、インターネットで多くの情報が入手できる現代において、いかに現地調査で貴重なデータを得るかを知ることができる。

以上のような各分野別の地域調査は、料理にたとえることができよう。中華やイタリアンなどの料理が分野であるとすれば、煮物や炒め物などの腕が「切り口（視点）」であり、食材が「オリジナルのデータ」である。腕・食材ともに良いのが理想であるが、腕の良さで食材の不足を補えるし、食材の良さが腕の不手際を補うこともあろう。地域調査のことはじめでは、自分が得意とする方面を伸ばせば良いのである。

（仁平尊明）